

令和4年度（第44回）

# 少年の主張 石川県大会

発表記録集

伝えよう！21世紀を生きる君たちの熱いメッセージを



と き ■ 令和4年8月27日(土)

ところ ■ 石川県青少年総合研修センター

石川県 石川県教育委員会 石川県健民運動推進本部  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

## はじめに

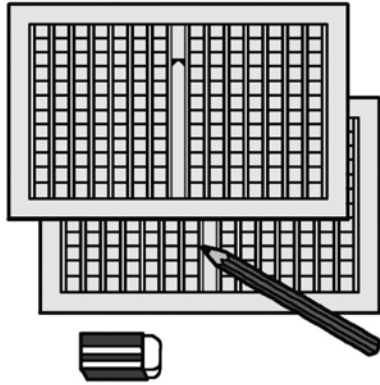
昭和五十四年国際児童年を記念してはじめられた少年の主張石川県大会も、たくさんの方々を支えられ、今年で四十四回目を迎えることができました。

この大会は、中学生が、日常生活の中での体験や考えを自身という言葉でまとめ、それを広く発表する機会を提供することにより、中学生世代の社会参加意識の醸成を図るとともに、多くの大人に現代の中学生への理解を深めてもらうことを目的として開催しております。

本大会は、加賀地区、石川中央地区、金沢市地区、能登地区の四地区から選ばれた十六名の中学生が、それぞれの体験から真剣に考えたことを力強く発表し、聴衆に大きな感動を与えました。

この記録集は、その十六名の主張を取りまとめたものです。一人でも多くの方々に読んでいただき、中学生が日ごろどのように考え生きようとしているのかをご理解いただき、今後の子ども・若者活動推進の一助としてご活用いただければ幸いです。終わりに、地区大会をはじめ、この大会のためにご尽力いただきました多数の皆様には厚くお礼を申し上げます。

石川県健民運動推進本部



も く じ

◎はじめに

◎大会発表作品

最優秀賞

これから出会うであろう人たちへ

中能登町立中能登中学校 三年 中田 聡音……………3

優秀賞

天才

石川県立金沢錦丘中学校 三年 加藤 希……………4

私の家族へ

七尾市立七尾中学校 三年 久保 心……………5

奨励賞

一つ一つの出会い

白山市立北辰中学校 三年 道上真生子……………6

「会話」の形

白山市立光野中学校 三年 松本 菜佑……………7

人とのつながりを大切に

白山市立北星中学校 三年 天満 愛菜……………8

「正しき」にこころ

北陸学院中学校 三年 古屋 七花……………9

生きやすく生きるために私

内灘町立内灘中学校 三年 板井愛友美……………10

「きょうだい児」が無くなる社会へ

金沢市立野田中学校 三年 高岸 奏……………11

主語をかえる

加賀市立東和中学校 三年 木下陽加里……………12

からっぽの「凄い」

七尾市立能登香島中学校 三年 清水 優生……………13

言葉に惑わされない私に

金沢市立大徳中学校 三年 林 莉愛……………14

本当の自分

中能登町立中能登中学校 三年 森正 璃音……………15

言葉の魔法使い

加賀市立山中中学校 三年 奥村 音葉……………16

工夫一つで変わる地球の未来

小松市立丸内中学校 三年 庄田 葵……………17

人生という資産を形成するにあたって

能美市立根上中学校 三年 重谷 昂伯……………18

(優秀賞、奨励賞は発表順に掲載)

◎審査員講評……………19

石川県教育委員会事務局学校指導課 担当課長 宮坂 巖

◎少年の主張石川県大会概要……………20

◎石川県大会審査基準……………21

◎地区大会概要……………22

◎第44回少年の主張全国大会

「わたしの主張2022」 内閣総理大臣賞受賞作品……………26



小学三年生のときに、『二月』という本に出会ったことで、私の考え方が大きく変わりました。

主人公の妹は、病気のため、痩せていて、とても小さいです。ある日、妹を見た、知らないおばさんは言います。「ご病気か何かですか？ かわいそうにね」主人公は「かわいそうだなんて、言われたくない！」と心の中で叫びました。

「かわいそうじゃない」こんな考え方があるのだと、私はそのとき、初めて知りました。

私は心臓に病気があります。生まれてすぐに大きな手術をし、そのあともずっと入院を繰り返していました。

このことを周囲の大人が知ると、彼らは決まってこう言います。「かわいそうに」と。

だからでしょうか。「自分は弱くて、何もできない人間なんだ」と思い込んでいました。周りからの悪意のある言葉にも、心配の言葉にさえも、怯えていました。

そんな中出会った、「かわいそうじゃない」という言葉。

「私は同情されるような存在じゃない。まして、見下される人間でもないんだ！」自分の中の暗い気持ち、すっと小さくなりました。

このときを境に、私は人に恵まれていることに気づけるようになりました。

私には運動制限があり、マラソン大会に参加できません。「うらやましい」とよく言われますが、私はそれが嫌いです。

両親に話すと、「気にしなくていいんだよ」と抱きしめてくれました。両親の優しさは、いつも私を救ってくれます。

「自分は長く生きられないのだろうか」という恐怖を打ち明けたとき、ともにその恐怖と向き合ってくれました。「確かに、この先何があるかわからない。でも、何があったって、みんなが守ってくれるよ」と、私を勇気づけてくれました。

マラソン大会当日。応援することしかできず、気持ちが沈んでいく

ばかりの私が、救われた瞬間がありました。

「応援してくれた聡音さんに、拍手をしましょう」という担任の先生の言葉で、クラスのみんなが温かい拍手を送ってくれたのです。

今でも、思い出すたびに心が温かくなります。

「私の周りには、助けてくれる人、大切にしてくれる人がたくさんいる。これってすごく幸せなことじゃないか！」

私を大切にしてくれる人たちに出会ったおかげで、今こうして生きていられる。気づいた瞬間、今まで出会ってきた人たちへの感謝の気持ち、心の中に溢れてきました。

同時に、「自分はこの人たちに、何か恩返しができないのだろうか」そんな気持ちも生まれてきました。

でも、恩返しって、何をしたらいいんだろう？ 子供の私にできることなんてあるの？

悩んでいたとき、主治医の先生が、教えてくれました。先生自身も耳の病気で手術を繰り返し、お世話になったお医者さんの恩に報いるために医者になったのだ、と。

はっとしました。支えてくれた人全てに、直接恩返しすることは難しい。それなら、これから出会うであろう人たちへ、恩を返せばいいのです。

私には、夢があります。医者になるという夢です。私を救ってくれた小児科の先生方のような医者に、私はなりたい。かつての私がそうであったように、辛い思いをしている子供たちの支えになりたいのです。

医者になるためには、人の何倍も勉強しなければなりません。そのため的一步として、希望の高校へ行けるように、今頑張って勉強しています。

たくさんの人に大切にしてもらえた私が、今度は、これから出会うであろう誰かを大切にするために。



世界は天才に溢れています。人の心を震わせる音楽を作る人。難しいテストで満点を取る隣の席の人。それぞれが私のもっていない才能をもっていきます。「天才」、秀でた人をそう呼ぶのなら、特技のない私は凡人なのでしょうか。

吹奏楽部に入部して二年。覚悟を決めて挑んだアンサンブルコンテスト。日々の練習で技術が向上する体感ほ心地よく、努力も苦ではありませんでした。そして、待ちに待った校内予選。不安と期待の狭間にいながらも自分らしい演奏ができました。結果発表。「クラリネット三重奏」。予選通過を知らされた時は言葉が出ないほどの高揚感に包まれました。一方、「選ばれたからには結果を残さないわけにはいかない」と耐えがたい重圧を感じました。落選した仲間や先輩方からの「頑張って」の声が皮肉に聞こえ、先生からの厳しい言葉には「もう聞きたくない」と思わず口に出してしまいそうになるほどでした。練習から逃げたい。もう大会に出たくない：私は音楽と真摯に向き合えずにいたのです。

迎えた大会当日。何度も何度も審査していただく動画を撮り直しました。度重なるミスに自分の実力不足を痛感し、部活なんて、音楽なんて、つまらない。もううんざりだ。正直、そう思っていました。そして結果発表。一点足りず、私は代表入りを逃しました。世界が色褪せ、「待って」と手を伸ばしても届かない、自分だけ置いていかれたような悔しくて寂しい思いに苛まれました。全力で挑んで結果が残らないなんて恥ずかしい。挑戦しても意味なんてない：私には才能がなかったんだ。そう思ったのです。

部活に行く気力をなくし、ただ時間が過ぎるのを待つ生活をしていたある日。たまたま手に取った音楽雑誌の中で、目に止まったのが『世界で活躍する作曲家のこの言葉です。「自分のことを人よりも『欠けた部分』の多い人間だと思っているから、その欠けた部分を過去や思い出で埋めていく」。驚きました。優れた音楽センスをもち、天才と呼ばれる彼も不完全な人間だと自分を捉えていることに。気がつきま

した。精一杯力を尽くした行動そのものが、今の自分を支えていると。自分の才能の開花を諦めていた原因は他人のことを羨み「天才」と呼んだ自分自身でした。優秀な結果、身勝手な優越感、そんなものは必要なかったのです。等身大の自分と素直に向き合うことこそが大切なのだと、この時やつと理解することができました。

私は今、次の大会に向けて練習に励んでいます。自分自身の成長、自分だけの音を奏でることを目指して自分と向き合っています。そんな私だからこそあなたに伝えられることがあります。天才。それは、他人と比較して優れた結果を出す人ではありません。不完全な自分と向き合って、前に進める人です。あなたもあなたの一歩を踏み出してください。すぐに成長を感じられなくても、確実にその一歩一歩があなたをよりよいあなたへと高めてくれるはずです。大丈夫。自分を信じてください。

あなたはどんな天才になりますか。



家族って本当うつとうしい。嫌い。ウザイ。うるさい。出てくるのは、そんな言葉ばかりでした。

小学校高学年のとき、私は家族が大嫌いでした。二つ下の弟は特にいうことは聞かないし、自分の思い通りにならないとすぐ泣くし、嫌なものには私に押しつけてくるし、「心、心。」とまとわりついてきてうるさいし。そして、何かをして怒られるのは毎回私。携帯を取り合っていたら、譲るのは私。ケンカをして謝るのも私から。「お姉ちゃんなんだから。」なんて言葉はもううんざりでした。弟の泣き声を聞いただけでため息が出ます。家族みんな弟のことが大好きで、口を開けば弟の話ばかり。家族がいつも気に掛けているのは弟だけで私じゃない。私は親が「お前は知らない子だ。」と言っているように感じました。そんな日々の中、私は不満だけがたまっていき、とうとうそれが爆発し、母に当たり散らしてしまいました。母はそんな私のため込んだものを黙って聞き、話が終わるとゆっくり口を開いてこう言いました。「大好き。」私はその言葉に驚き、母の顔を見ると、泣いていました。「心も同じくらい大好きだよ。差別しているみたいになってしまったのは謝る。だけど家族みんな誰も心のことをいらない子なんて思ったことはないから。だから、嫌いだなんて言わないで。」と言いました。普段、めったに泣かない母が泣いている姿とその言葉を聞いて、私は今まで家族のことが大嫌いだと思っていたことを後悔しました。弟が家族みんなからチャホヤされていたことが羨ましくて、嫉妬して…みんなはそんなこと少しも思っていないのに、勝手に自分はいらない子なんだと思いついてしまったことにそのときやっとな気がつきました。そして同時にふと思いました。どうして私は今まで家族は私に何もしてくれないだなんて思っていたのだろう？親はいつも仕事で忙しいのに学校まで送ってくれたり、帰りが遅くなってしまうときは、心配して迎えに来てくれたり、私の悩みを真剣に聞いてくれました。弟は、私が友達とケンカをして泣いていたとき、「心、大丈夫？」と心配してくれました。祖母は、足を悪くしているのに、

自転車に乗る練習に付き合ってくれました。思い出せば、家族に数え切れないほど感謝しなくちゃいけないことがあったのに、それを当たり前だと思っていたことにも気付きました。そして、私はその後母に「ごめんさい。ごめんさい。」と何度も謝りました。

私はその日から、家族のことを大嫌いだとか言わなくなったし、思わなくなりました。自分がダメだったことに気付いたし、何よりもう、母のあんな悲しそうな顔を見たくありませんでした。だけど、六年生のとき、また泣かせてしまいました。卒業式のことです。

式の終わりに私が書いた家族への手紙を渡すと、母は「よかった。本当によかった。」と言ってまた、泣きました。父も少し泣きました。私はそれを見て、自分は本当に愛されているんだなと思ったのと同時に、この家族でよかったと思えました。前に見た母の涙と違って、ほっとしました。

私の家族は、うっとおしくて、面倒くさくて、温かくて、優しくて…私の一番大切な人たちです。そんな家族に私はいつも照れくさくて伝えられない「ありがとう」をさりげなく伝えていきたいです。いつもありがとう。大好き。私は家族みんなできています。



「ありがとう」ある貴重な体験を通して、私はこの言葉が大好きになりました。

中学一年生の頃、学校で、お年寄り宅を訪問し、交流するというボランティア活動の参加者を募っていました。それは、高齢者と中学生が交流することで、生徒の考えを広げ、お年寄りも楽しいひと時を過ごせるというものです。入学してまだ間もなく、何にでも挑戦しようという目標を持っていた私は、迷わず参加を決意しました。初めての訪問の日、自分の住んでいる町から遠く離れた、おばあちゃんのお宅へ伺いました。何を話せばよいのか分からず緊張していた私は、あまり自分から話しかけることができませんでした。それでも、一緒に参加していた三年生の先輩はたくさん質問し、とても真剣な表情で話を聞いていました。おばあちゃんは戦争の体験や、小学校までしか通えなかった思いなど、貴重なお話をたくさん聞かせてくださいました。また、私たち中学生の学校生活の様子を、とても嬉しそうに聞いてくださいました。その日、家に帰ってから、私の心は温かい気持ちで満たされていました。そして、もっと楽しんでもらいたい、と思いましたが。二回目の訪問日、学校の文化発表会で作った、絵はがきをプレゼントしました。花の絵を描いた、ただの絵はがきです。ですが、おばあちゃんはその絵はがきをじっくりと眺め、「ありがとう、本当にありがとう」と言ってくれ、とても喜んでくださいました。おばあちゃんの「ありがとう」には何か、心に響くものがあります。おばあちゃんは、私たち中学生がお宅に伺った時や、学校生活の様子をお話した時、必ず「ありがとうね」と言います。私は、あれほど心に響く「ありがとう」を聞いたことがありません。おばあちゃんの「ありがとう」には、一人一人を大切に思う思いが込められている気がします。おばあちゃんは、小学校に通うために両親にとっても負担をかけたといえます。それでも中学校には通えなかったそうなので、私は「中学校には通わなくてよかったのですか」と聞きました。するとおばあちゃんは、「小学校に通わせてもらえただけでとてもありがたかった」とお話し

していました。小学校に通う、それだけのことが私には簡単に思えてしまいますが、そうではないのです。それを叶えるために一生懸命に努力してくれる人、大切に思ってくれる人がいるからこそ。おばあちゃんには私にそう教えてくださいました。

「ありがとう」直接伝えるのには、少し照れくさい言葉ですが、言われたらとても心が温まる言葉でもあります。

私は、「お願いします」で始まり、「ありがとうございました」で終わる習慣を当たり前にしています。この二つの言葉も、「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」と同じように、基本の挨拶です。「挨拶」の由来は、互いに心を開いて近づくという意味からです。それなら、「ありがとう」はとても便利な言葉だと思いませんか。なぜなら、誰もが同じように口にできる言葉だからです。たったの一言に、元気をもらえる人がいます。言葉の可能性は無限です。

コロナ感染が拡大し、訪問が中止されたのは五回目のことです。それ以来、ずっと足を運べていないおばあちゃんのお宅。もう訪問が再開されることはないかもしれない、そう思うと寂しい気がします。まさかこのようなことになるとは思わず、言えなかった「ありがとう」ございました。あの時言えなかったなあ、と後悔しています。

思っている言葉は、口にしないと相手に伝わりません。いつか言おうと思っても、その「いつか」は来ないかもしれません。一つ一つの出来事は「ありがとう」の連続です。それは人との出会いであったり、喜びを分かち合う瞬間であったりします。ですが、最終的には笑い合えるのが良いと思いませんか。そのために、小さなことにも「ありがとう」を言いましょ。いつか、素敵な出会いに巡り会えることを信じて。



## 奨励賞 「会話」の形

白山市立光野中学校 三年 松本 菜佑

「会話」とはどのようなものでしょうか。辞書には、「人と言葉を交わして話をする事。」と書かれています。しかし、私は、言葉を交わして話をする事だけが、「会話」ではないと思います。私がこのように考えるようになったのは、三年前に私の祖父が病気になったことがきっかけです。

私の祖父は、もともと口数が少なく、静かな人でした。でも、私にとって、祖父との会話はいつも心安まる時間でした。しかし、三年前に病気になったことで、祖父はほとんど動けず、一日をふとんの中で過ごすようになってしまったのです。そうして、ほんの数分で祖父はできることが一気に減ってしまいました。私はそんな祖父の姿にショックを受けました。着替えるのも一苦労で、ご飯も思うように食べられない祖父の姿を見るのはとてもつらかったです。その中でも一番ショックだったのが、祖父と会話をすることが難しくなってしまったことです。祖父は病気によってうまく話すことができなくなり、以前にもまして口数が減ってしまいました。

当時六年生だった私は妹と一緒に祖父に会いに行きました。しかし、以前とは変わり果ててしまった祖父の前に、私は戸惑い、何もできませんでした。

そのことが悔しくて、私は何かできることがないか考えてみました。そして、思いついたのが「会話」です。祖父は話すことは苦手になってしまったけれど、身ぶりや表情を使って自分の気持ちを伝えることで、祖父を元気づけられるのではないかと思ったのです。さっそく祖父に会いに行き、学校であったことや友達のことを身ぶりや表情を使って話すと、祖父はとてもうれしそうに笑ってくれました。

このときに私は思いました。祖父はうまく話すことができなくなっ  
てしまい、声での会話はできなくなっ  
てしまいました。しかし、心で  
会話ができるのではないかと。私は祖父の笑顔を見たとき、言葉  
ではないけれど、祖父と久しぶりに「会話」ができたと感じ、うれ  
しかったです。

「会話」には人と言葉を交わして話すだけでなく、様々な形があり  
ます。例えば、手を使ってやりとりをする手話があります。私は幼い  
ころ、父と一緒に手話の教室に通っていました。そこで、父に「手話  
をうまくしようとするのではなく、気持ちで伝えようとするところが大  
切だ」と言われました。そのころは父の言葉の意味が分からず、深く  
考えたことはありませんでした。しかし、今なら少し分かる気がしま  
す。どんな会話の仕方でも、相手に気持ちを伝えようとし、相手の気  
持ちを受け止めることが大切なのです。

みなさんは相手のことを思っていますか。「会話」には  
様々な形があります。ですが、どんな会話にも必要なのは相手を思  
うことです。自分の周りにいる人たちとの会話を大切にしましょう。会  
話は人に大きな影響を与えます。人を幸せにすることも苦しめること  
もできてしまいます。それだけ大きな力を持つものだからこそ、ほん  
の少し相手を思いやるだけで、普段の会話でより多くの人に幸せな気  
持ちを与えられると思います。これからも私は、今まで以上に祖父を  
元気づけるために心の「会話」をしていきたいです。





みなさんは自分が住んでいる町や地区が好きですか。町や地区の未来を考えますか。私の住んでいる町内は年々少子高齢化が進んでいます。ですが、最近、私たちの町内に新しく入居者が来てくれました。しかも、三世帯もです。母に「若い世帯が来てくれたらめっちゃ嬉しいね。」と言いました。私がそんなことを急に言い出したので、驚いたのでしょうか。「愛菜、地元愛がすごいね。」と、母は言いました。確かにそうかもしれない。私の住む町は、取り立てて有名なわけでもなく、あるのは薬局や居酒屋くらいです。でも、私はこの街が好きです。この出来事をきっかけに、私は、自分の町のことについて考え始めました。

私は、町のみんなが助け合い、誰にとっても優しく住みよい場所であってほしいと思います。そのために私ができることを考えてみました。

一つ目は挨拶です。みなさんは登下校中に誰にも会わずに家と学校を行き来しますか。誰にも会わないということはめったにないことではないでしょうか。犬の散歩をしている人、ごみ捨てをしている人、ウォーキングをしている人。私はできるだけ出会った人には挨拶をしようと心がけています。自分から挨拶をするようになってから、うれしいことがありました。激しい雨の日の朝、私はいつものように合羽を着て、自転車で友達を迎えに行きました。友達が出てくるまで、外でぼーっと待っていました。するとよく挨拶をする方が「どうしたの。大丈夫？」と声をかけてくれたのです。私が一人で雨の中、立っていたので心配してくれたのでしょう。名前も知らない方でしたがその心遣いがうれしく、温かな気持ちになりました。何気なく挨拶を交わしていただけの関係なのに、私を思いやってくれました。私の町には、優しい人が住んでいる。それがとても素敵なことになりました。

二つ目は町内で行われている活動に積極的に参加することです。例えば、クリーン作戦や側溝掃除などです。クリーン作戦に参加しているときに近所のおじいさんが「ゴミ集めますか？ 新しい袋を

持つてきますよ。」と言ってくれました。私は何も考えずに「ありがとうございます。」と言いました。けれどよく考えると、このような仕事は私たち若者が積極的に行うべきだとは思いません。残念ながら中学生や高校生の参加は少なかったように思います。昔から住んでいるお年寄り、必ず清掃活動に参加しています。しかし、重たいごみを持つのは、体力的にとってもきついはず。若い私たちがこのような仕事に率先して参加すべきではないかと思いました。このような活動で町がきれいになり、また、町内の人とのつながりが生まれます。それが、温かい町づくりにつながっていくのではないのでしょうか。

雨の日に名前も知らない私を気遣ってくれた人や、腰が痛いのに、町のために積極的に掃除に参加していたお年寄り、私の住む町がそんな優しい人であふれているから、私は、この町が好きなのだと思います。大好きな町のために中学生の自分たちにもできることはあります。それはみんなが少しだけ意識を変えることです。みんなが意識を少しだけ変えることで私たちの町や地区は、温かく住みよい場所になると思います。コロナ禍で互いに交流することが憚られるそんな時代です。けれど地域の人々で、協力し合い、声をかけ合うことで、だれかを助けることができるのではないのでしょうか。私たち若者が、もっと協力していけたらいいと思います。そして、これからも、私の大好きな町であり続けてほしい、そのために自分ができることを考え、行動に移していきたいです。



## 奨励賞 「正しさ」について

北陸学院中学校 三年 古屋 七花

一学期の授業では、国語でも英語でも「生物の絶滅」がテーマでした。生態学者の文章から、多様な生物から成る生態系が私たち人間にいかにも多大な恩恵をもたらしてきたかを学びましたが、ひとつの問いも提示されていました。「絶滅しても生態系に大きな影響を及ぼしうにもない生物や、人間に恩恵をもたらさうにもない生物は、絶滅してもかまわないのではないか」、という問いです。教科書は反論を展開します。「ある一種類の生物の絶滅により、生態系全体の仕組みが崩れてしまうこともあり得、ただどの生物が重要な役割を果たしているかは分からない」。また、「現時点では有用とは考えられていない生物も、バイオテクノロジーの進展によって、人間の生存に役立つ可能性がある」。こうして私たちは「生物の絶滅はあつてはならない」という了解のうちに、授業を終えました。

それでも私は内心、蚊ぐらいいは絶滅してもよいのではないかと思っていました。夏になると毎年悩まされる、あの蚊ぐらい。それで、蚊はなぜ絶滅したらいけないのかを調べ始めたのです。インターネットの記事を読んでいくと、世界には蚊が存在することにより救われている動植物もいるらしく、何とも言えない気分になりました。なおも調べていくと、一冊の本に出会いました。「絶滅できない動物たち」という本でした。私は早速その本を借りて読み始めました。そしてこの本との出会いにより、私は生物の絶滅について、ひいては私が生きるこの世界について、いつそう深く考えることになったのです。

アフリカ東部タンザニアの山奥、キハンシ渓谷にのみ生息していたキハンシヒキガエル。このカエルは二〇〇三年に野生下では絶滅し、現在はアメリカのブロンクス動物園の特殊な人工環境の中で、命をつないでいます。絶滅は免れたものの、再び野生に戻る可能性のない彼らを、「野生絶滅種」と呼ぶそうです。

このカエルが発見されたのは一九八四年頃にキハンシ渓谷で水力発電プロジェクトが始まったことがきっかけでした。電力のない生活を続けてきたタンザニアの人々に電気をもたらすこのプロジェクトに、世界銀行も積極的に融資を行いました。けれども環境調査の過程で、

滝のある湿地にからし色の小さなカエルが生息しているのが発見されたのです。新種でした。大量の水しぶきや強風の環境に完璧に適応した希少性の高いカエルでした。このことは調査チームから世界銀行とタンザニア電力会社に報告されますが、プロジェクトを中止する動きは見られませんでした。けれども一九九九年、水力発電プロジェクトが完成した年に、フレンズ・オブ・ジ・アースという環境保護団体から非難の手紙が届くと、世界銀行は態度を一変させ、キハンシヒキガエルは世界銀行による保護の対象となったのです。

きわめて貧しい地域に電力を供給しようとするプロジェクトの過程で、その土地でしか生きられないカエルが発見されました。どうすることが正しい対応だったのでしょうか。カエルの環境保全のために電力供給を諦めるべきだったのでしょうか。それとも、そのままカエルが絶滅するのを容認するべきだったのでしょうか。この例では、カエルをまったく別の場所で人工飼育するという方法により、人びとの暮らしのための電力とカエルの生存との両方を取りました。けれども、生態系は破壊されてキハンシヒキガエルは野生には戻れず、保護のために莫大な費用が必要となりました。

授業では、「生物の絶滅はあつてはならない」と学びました。フレンズ・オブ・ジ・アースもそう言うでしょう。でも、それはいかなるときにも絶対なのでしょう。一方的な言い方は、それが豊かな先進国から発せられるとき、どこか暴力的です。世界にはさまざまな立場や考え方があつて、しかも矛盾を抱えています。それを率直に認めて、だから絶対に正しいとは言えないと感じながら、その時にできる最善を行おうとすることが大事なのではないでしょうか。ひとつの考え方に囚われず、常に問うことのできる、考え方の多様性こそ、私たちが失ってはならないものなのではないでしょうか。

中学三年生の夏、ものごとは単純ではないと私は学び取りました。「蚊ぐらいいは絶滅してもよいのではないか」と思い続けられる世界でありたい、秘かにそう感じました。



「調子が悪いときは勉強も頭に入らないから、しっかり休んで調子が戻ったら集中して勉強したらいいよ。」

これは、父が私に言った言葉です。しかし、当時の私はこの言葉を素直に受け取ることができませんでした。もしテスト前に休み過ぎて点数が良くなかったら、もし学校を休んで友だちとの距離ができてしまったら……。そう思っただけ、私はできるだけ休まずに走り続けたいと考えるようになりました。しかし、本当にこの考え方は正しいのでしょうか。

私は、中学校に入り、学校に行けない日がでてきました。行きたくても、体がついていかず、体を壊してしまっただけです。しかし、あの時の私は、体が休めと訴えてきても、しっかり休んであげることができませんでした。それは、私の頭のどこかに、「学校」の二文字がいつもあったからです。勉強に追いつけなくなるかもしれない不安、係や委員会などの仕事をクラスの人に負担させている後ろめたさ、ふとんの中で体を休めていても、脳は休まず、罪悪感でいっぱいでした。走ることをやめても、息が上がるのは止まらないようで、走っていてもいなくても、ずっと苦しいままなのかなと、考えても仕方のないことばかり考えるようになりました。

そんなわたしにわずかな希望を与えてくれたのは、アニメや小説などの物語でした。今までそのようなものに熱中したことはなかったのに、物語が進んでいく感覚に楽しさを覚え、それに没頭しているときは悪いことを考えず、リフレッシュできるようになりました。そして、そんな楽しみを見つけたからこそ、それまで考えることを避けてきていた、自分の生き方や考え方について、前向きに考えられるようになりました。今では、後ろばかり向いてうずくまっていた時間は無駄ではなかったのだと、暗闇の中にいた自分を肯定することができています。

最近、若い人の自殺が問題になっています。その原因としてあげられるのは、学業や人間関係に対する悩み、未来に対する不安、などが

そうです。自分も同じ悩みを抱えていると思った人もいるのではないのでしょうか。では、自殺した人は心が弱かったのでしょうか。私はそうではないと思います。この問題は、どんな大きさの悩みでも、それを誰かに話すことができず、一人で抱え込み、苦しんだままにいる人が多いという事です。休んだり、悩みを話したりすると、迷惑をかけてしまうと思えば、行動できなくなるのです。そんな自分を許すことができず、「死」を選んで、自分の存在ごとこの世から消す選択を取ってしまいます。ネットには、死にたい気持ちや大切な人を亡くした苦しみなどを好きなように書き込めるサイトがありました。自分を追い込んでしまう人が少なければ、そんなサイトは存在していません。もしも、人に話すことが自分を守る方法だということを知っていたら、もう少し未来は変わっていたのではないのでしょうか。自分が全て悪いからと一人で抱え込まず、人に話したり、楽しみをみつけたり、「自分の味方をする」ということが、自殺に追い込んでしまう原因のナニカの打開策になるのだと私は思います。

苦しいときは休んで、自分自身と向き合って、自分の味方をする、これは現代を生きる人々の共通認識でなくてはならないと思います。休むことの一步目を踏み出すことはとても勇気がいります。しかし、「休むこと」は決して無駄な時間ではありません。自分を前向きな気持ちにするための大切な時間です。安心して、休んでください。周りの人は「休むことは甘えだ」などと言わずに心に寄り添ってあげてほしいです。「休む」という判断を受け入れる風潮が広まれば罪悪感を持たずに休め、生きやすい社会になるのではないのでしょうか。この思いがたくさんの人の心に伝わり、生きにくい人が生きやすくいられる社会が実現することを願っています。



## 奨励賞 「きょうだい児」が無くなる社会へ

金沢市立野田中学校 三年 高岸 奏

「ママ、あの子何？」  
家族で買い物中、男の子がこちらを指差して言った。それを聞いて、「やめなさい。」と言うお母さん。周りの人から一斉に向けられた視線。それらをひしひしと感じた私は、車椅子を押しながら思わず「またか」とつぶやいた。

私の妹は足が不自由で、車椅子に乗っている。生まれつきのもので、私が小学生の頃から妹は車椅子に乗っていたので、私にとってはそれが当たり前のことであった。しかし、見慣れない人の目には妹はやはり異質に映るのだろう。妹と一緒に買い物などに行くと、この男の子のような反応をされたり、何も言わずともジロジロ見られたりすることがほとんどだ。それらに悪意がないと分かっていても、妹が嫌な思いをしていないか心配で、いてもたってもいられなくなる。何より、好奇・憐れみなど、様々な視線が妹と私に突き刺さるようで、怖かった。自分と同じような思いをしている人がいないか気になった私は、障害のある兄弟を持つ人について調べてみた。私のように障害のある兄弟を持つ人たちは、「きょうだい児」と呼ばれるそうだ。兄弟、ではなくきょうだい。十四年間生きてきた中で、この言葉を知らなかった私にとって、そういう言葉が存在すること自体、かなりショックなことだった。記事によると、きょうだい児は、親の関心を受けにくく、周囲からかわられて傷つき、孤独感に苛まれる傾向にあるという。具体的には、親の期待が全部自分に来て辛かった。親が自分に構ってくれなかった。弟のことを友達に揶揄われて悲しかった。自分の将来が不安だった。などである。

振り返ってみると、私にも同じような経験があったように思う。妹が病院に行かなくてはならなかった時、母が一ヶ月以上も家を空けていて寂しかったこと、友達に妹のことを説明するときに、かわいそうだと言われて傷ついたこと。また、それらを全て妹のせいにして、あたかも私が被害者であるような気持ちでいる自分に腹が立ったこと。本人が一番辛いのはわかっているけど、やっぱり私も苦しさを感じる時

がある。誰のせいでもないため、どこにも気持ちを吐き出せない。このように、きょうだい児であるが故の苦しさを抱えている人は、他にもたくさんいるのではないだろうか。

では、このような悩みはなぜ生まれるのだろうか。その原因は、私のようなきょうだい児、障害を持つ当事者、周囲の人間の価値観のずれにあると思う。今まで私は、妹が何か言われていると、「なんとかしてあげなきゃ。」と思っていた。でも、これは妹が弱い存在だと勝手に思っていたからだ。もしかしたら、妹は何か言われたことを私ほど気にしていないかもしれないし、何より、妹のほうがそういう時にどうすればいいかよく知っている。また、長い年月を妹と過ごしてきた私にとって、妹が車椅子に乗っていることはごく当たり前のことだ。しかし、他の人にとってそれは当たり前と言えるだろうか。いや、違う。障害のある兄弟をもつ経験がない人の目には、異質に映るに違いない。このように、私と妹、そして私と周囲の人の価値観がそれぞれ異なることにより、差別や偏見が生まれると思う。

このような差別や偏見から生まれるきょうだい児の悩みを解決するには、どうすればいいのだろうか。そのためには、まず、私自身が妹の思いを知ること。そして、きょうだい児としての私の悩みや思いを積極的に周囲の人に伝える努力をすることで、障害に対する理解が深まる。価値観が変われば、相手への接し方も変わる。そうすれば、きょうだい児が感じている生きづらさも解消されるだろう。あえて「きょうだい児」という言葉を使う必要のない社会となるのが、私の願いだ。



「ほら！ 女の子なんだから足閉じて。大人しくしていなさい。」  
三人姉妹の家で育った私は、子どもの頃から、「女の子だから。」という言葉をよく聞いていました。そしてその度に、「どうして女として生まれただけで、女性としての価値観やイメージを押し付けられなければいけないの？」と、疑問に思っていました。また、家族で買い物に出かけた先などで、「男の子なんだからそのくらいで泣かないの！」と、母親らしき人が小さい子に向かって言っている姿を目にすることがありましたが、「男の子だって、泣きたいときはあるでしょうに。」と、半ば無理やり我慢させられているその子に同情する気持ちを持ったこともありました。

このようなことは学校生活の中でもあり、「あいつ、女子のくせに男子より大きい。」や「女子って、泣けばどうにかなると思ってたんじゃない。」という男子の発言がきっかけで、誰かを深く傷つけたり言い争いの種になったりすることがあります。また、言われている女子のほうでも、「男子って人間関係楽そうだよね。」や「男子ってほんと子どもっぽい。」などと、半ば馬鹿にするような発言で、男子に不愉快な思いをさせてしまうこともあります。

問題なのは、これら「女子って」、「男子って。」などの言葉が、口喧嘩で興奮状態となった結果出た言葉ではなく、いつの間にかお互いに対して自然に抱いてしまっている、男女の勝手なイメージによって発せられているということです。

また、親が子に対してよく用いる言葉には「男の子なんだから。」の他にも、「まだ子どもなんだから。」や「もう大人なんだから。」といったものもあります。でもそれらは、まだ子どもだから何もできないだろうという思い込みで安易に手を貸し、かえって子どもの成長の妨げになったり、手っ取り早く我慢をさせる理由として、「もう大人」という言葉を都合よく使い、理不尽な思いを子どもに抱かせたりしてはいないでしょうか。

個人の勝手なイメージ、価値観などから無意識に出た言葉には、偏

見につながる可能性のあるものが多くあります。そしてそれらは大抵、「男は」、「女は」、「子どもは」などといった言葉から始まっています。小さな偏見は徐々に大きくなり、やがて差別へとつながります。今問題になっている男女の格差社会や子どもへの人権侵害なども、案外こんなところから始まっているのかもしれない。

現在の日本は他の国に比べ、男女間の格差がとても大きいと知りました。そしてそこにはこの国が歩んできた歴史的背景が影響していると聞いたことがあります。確かにそこには、「よき伝統」や「美德」とされる慣習もあるかもしれませんが、女性の管理職の数や政治への参加など、諸外国からの国際的評価は厳しいものとなっています。このような状態を改善させるには、みんなの意識改革を進め、男性や女性、子どもに対して持つイメージや価値観を変え、偏見の種をなくしていくことが大切だと思います。少しずつでもそれができれば、日本のそして世界全体の、性別や人種の違いなどから起こる差別、子どもの人権侵害の問題をなくしていくことができるのではないのでしょうか。

「男は」、「女は」、「子どもは」などといった主語が、大きくなればなるほど、偏見や差別に繋がってしまうということを、もっと私たちは意識する必要があると思います。主語を前面に押し出して、「こうあるべき」を強要するのではなく、人としてあるべき姿勢や考えを示して、偏見や差別のない世の中にしていこうとするのであれば、「ほら！ 女の子なんだから足閉じて。」ではなく、「素敵なスカートを穿いたときに、足を開く癖がついていたらどう思う？」など、日常生活で交わされる言葉の、ちょっととした言い方や表現の工夫から、それは始まっていると思います。



## 奨励賞 からっぽの「凄い」

七尾市立能登香島中学校 三年 清水 優生

「凄い！ 私だったら絶対出来ないよ。」私は人を褒めるとき、よくこの言葉を使います。皆さんも人を「凄い」と言って褒めた経験があるのではないのでしょうか。

「障害があるのにスポーツなんて凄い。」

「被災地復興のボランティア？ 凄いなあ。」

私はそうやって、人を称賛することで、その人を理解しているような気分になり、何もしていない自分を正当化していたのかもしれない。

私には、大好きな女性の動画配信者がいます。ある日、私はいつも通り始まった配信を見ていました。ゲームをしながら視聴者のコメントを拾うといった形式の配信で、ふと彼女が、こんなコメントを拾いました。

『耳が聴こえないけれど、いつも貴方の配信を楽しみにしています！』

私は驚きました。まさか、耳の聴こえない子がこの配信を見ているなんて。

いっぽう配信者の彼女は「機材の準備が出来ていれば手話で話せるのに」と残念そうに言います。

『手話が出来るなんて凄い』と思い、そのままコメントしました。

コメント欄には同じように『凄い』の文字が並びます。

「凄い？ え、凄いなあ……。耳が聴こえない友達がいて、その子と話したいから覚えたいんだ。皆もやろうと思えば出来るくらい簡単なやつ。」

凄い、というコメントに納得していない彼女の様子に、私はハッとしました。私は「凄い」と言うばかりで何も行動していなかったのです。気付いた途端、何も考えず『凄い』と言ってしまったことが恥ずかしくなり、慌てて彼女の配信を閉じました。

次の日、私は初めて手話について調べてみました。「ありがとう」「おはよう」「ごめんなさい」他にも日常的に使うような言葉は全て手話

になっていて、その時覚えられる手話もたくさんありました。このとき、「やろうと思えばできる」と言った彼女の言葉の意味を心から実感しました。

私は「凄い」というわりに、その人のどこがどう凄いのか、ということ考えたことがありませんでした。手話が出来ること、ボランティアに参加することも、確かに凄いことです。では、何が凄いのか。私は何かをしようと考え、それを実行する行動力が凄いのだと思います。障害を持って、なお活躍するスポーツ選手も、はるばる遠くから被災地復興のためにやってくるボランティアの人たちも、何かをやるうと考え、それをやりたいことで終わらせず実行する。その行動力の素晴らしさに気付き、胸の中に、ストン、と落ちたように感じました。

ボランティア、募金、手話……。身近にある「やろうと思えばできること」を私はこれまで、自分には関係ないと他人事のように思ってきました。皆さんの中にも、そう考えている人は多いと思います。これから私は、今まで言っていただけのからっぽだった「凄い」を実行に移し、出来ない、関係ないではなく、「やってみる」を大事にしていきます。

なりたい自分になれるように。



私のお父さんはいわゆる「中卒」です。皆さんは最終学歴が中学校卒業を表す「中卒」という言葉にはどんなイメージを持っていますか。

最初に思い浮かぶのは、「頭が良くない」や「ヤンチャそう」といった、どちらかといえば、マイナスなイメージなのではないでしょうか。

しかし、私のお父さんは、私や私の妹の為に一生懸命働いてくれたり、家事をしてくれたり、塾に行かせてくれたり、送迎をしてくれたり、いろいろな事をしてくれていて、いいお父さんであることは、本人には恥ずかしくて言えないけど、わかっています。

わがままを言いすぎて叱られることもありますが、いつも優しく私達に接してくれます。

家の中でも、家の外でも、頼りになるお父さん。お父さんは、一人の大人として立派に生きています。

そんな私のお父さんは二十四歳で起業しました。そして、三十三歳で宅地建物取引士の資格も取りました。

「高校に行っていないから、大変な部分はある」と、お父さんは言います。それでも一生懸命に働いて、勉強をしているお父さんは、とても誇らしいです。

「中卒」という言葉は、学歴というものだけでいろいろな人をひとくくりにする言葉です。たしかに、仕事に就くときに、たくさんのお父さんで学歴が問われると思います。しかし、私のお父さんのような「中卒」も、いるのです。

二ユースで「学歴フィルター」という言葉を聞いたことがあります。試験を行う際に、学歴だけで選考から落としているという実態があったのではないかと、という内容でした。全ての人や会社がこのようなことをしているとは限りませんが、「中卒」という言葉だけで全てを決めつけ、不採用にするなどといったことは、しないでほしいと思います。

言葉というのは、便利なものです。自分の知らないことでも、人から「なんとかみたいなヤツだよ」と言われれば、それでイメージができたことでもあります。

「中卒」という言葉がいろいろな人をひとくくりにしてしまえるように、「まとめる」という意味で言葉はとても便利です。

一方で、その便利さゆえに、見えなくなってしまうものも、あるのではないのでしょうか。だからこそ、言葉を使うことには慎重にならなければいけないと思います。

「勝手な想像だけで人や物を判断し、本来の良さを見ようとしない。」そんな人がいなくなり、誰もが過ごしやすい社会になってほしいです。

人や物事と向き合うときに、言葉に惑わされないようにするのは、大切なことです。それと同時に、私たちにできることは、正しい知識を身につけていくことなのではないでしょうか。正しいことを知り、正しい判断ができるようになることが、これからの世の中を生きていく私たちに必要なことなのです。



## 奨励賞 本当の自分

中能登町立中能登中学校 三年 森正 璃音

私はよく、友人から悩みを打ち明けられます。「本当は辛いんやけど、みんなの前やと無理して笑わせてしまうんやよね。」「相手が変わったら態度も変わるのって、ダメなん。」友人たちの悩みは、自分にも当てはまることばかり。「本当の自分」って何だろう。友人の悩み相談に付き合いながら、自分自身も悩んでいました。

みなさんは「本当の自分」とは何だと思いますか。

私は小学校の頃からリーダーを経験してきました。人前で話したり、グループやクラスをまとめたりすることが好きで、得意な方です。しかし、家族や親友は私によく「本当は甘えん坊やもんね。」とか「実は、表裏あるよね。」とか言います。この言葉に縛られ、いつしか私は、相反する自分があるのは、恥ずかしく、いけないことなんだ、と思うようになりました。さらに、リーダーとしての私は本当の自分ではないのだ、そんな考えにとらわれ、苦しむようになりました。

そんな思いを抱えながらも、中学校に入学して、自らクラスの会長となりました。堂々と人前で話し、リーダーらしいしっかりした姿を見せていたので、中学校で初めて知り合った友達は、甘える私を知らないままでした。その友達と仲良くなるにつれ、リーダーとしての姿で接していることに、罪悪感を抱くようになりました。これって友達に嘘ついたりすることになるんかな。友達に見せる笑顔とは裏腹に、私の心は曇ったまま。甘える姿を見せよう、そう考えることはあっても、できませんでした。いつもとは違う姿を見せたら、友達が離れていくかもしれない。それが何よりも怖かったです。

中学三年になり、私は生徒会長となりました。会長として行動しなければならぬ場面が増え、なぜこんなに演じているんだろう、何をこんながんばっているんだろう、と辛い気持ちは強くなるばかり。会長としての仕事をほめられるたび、心の中で「これは本当の自分じゃないんです。」とつぶやき、自分を否定しました。私を信頼してくれる人みんなを裏切っているんじゃないか。自分で自分を追いつめていることを分かってはいても、どうしても止めることができな

した。

そんなとき、ある友人がこんな言葉をくれたのです。「生徒会長としての姿もかっこいいんやけど、やっぱり甘えとる姿もかわいい。そのどっちも私は好きやよ。」あつ、と思いました。パッと霧が晴れたような気分になりました。友人は両方の私を受け入れてくれている。私はやつと気づきました。生徒会長の私も甘えん坊な私もどれも本当の自分なんだ、隠さなくても、怖がらなくてもいいんだ、と。

友人の言葉で、世界は一変しました。どんな姿も、すべて「本当の自分」だと素直に認められるようになり、毎日がより充実していくのが実感できるようになりました。リーダーとしての自分も、甘えん坊な自分も、どちらもためらうことなく見せることができるようになり、罪悪感もなくなりました。

「本当の自分」って何だろう。

私のように、複数の自分を受け入れられず、苦しんでいる人がいたら、「どれも本当の自分だよ。」と今度は私が背中を押していきたいです。

私自身、この先も自分の姿に、疑問をもつことがあると思います。そんなときは、自分がどんな姿であっても否定せず、認め、前向きに生きていけるよう努力し続けていきたいです。

「どれも本当の自分。どんな自分も隠さなくていい。」この言葉を胸に、どんなときでも、「本当の自分」で生きていきます。





「いらっしやいませ。お客様、今日は何をお探でしょうか？」私  
が、小学生の頃から通っているお店には、憧れの店員さんがいます。  
とびつきの笑顔と丁寧な対応で、小さな私にも一人前のお客さん  
として接してくれるので、いつもその店に行くと、何だか大人になっ  
たような誇らしさと温かい気持ちをもたらせるのでした。あの人はどう  
して素敵なのだろうか？そう考えると、魅力的な言葉の使い手である  
うことに気づき、私ははっとしました。

今の自分を振り返ると、普段のだらしない言葉遣いの自分の姿ば  
かりが浮かび、恥ずかしくなってしまう。だから私は、そんな今の  
自分を変えたいと思いました。魅力的な言葉の使い手になるため  
に……私の挑戦の始まりです。

一つ目のチャンスが訪れました。私は保健委員長になり、全校生徒  
の心の健康を目指し、「スマイルフラワーを咲かせよう！」という取  
り組みを行いました。普段なかなか言えない友達への感謝の気持ちや  
友達の素敵なお話を言葉にし、カードに書くというものです。全校の人  
が書いてくれたカードで、玄関のスマイルフラワーの木はいっぱい  
になりました。私は集会で、「この取り組みを生かし、言葉の魔法使  
いになってこれからもみんなの心に笑顔の花をさかせましょう」と伝え  
ました。教室に戻ると、友達が駆け寄ってきて「言葉の魔法使  
いって言葉、すっごく良かったよ！」と言ってくれました。私は本当に嬉し  
く、大きな自信になりました。この経験から、相手を意識して言葉  
を使うことの大切さや言葉の使い方によって相手を暗い気持ちにも明  
い気持ちにもさせることができるということを実感しました。言葉は  
キャッチボール。自分が投げる時には、相手を見て、相手のことを考  
えて投げる。そして自分で投げるボールには責任を持つことが必  
要だと感じました。

二つ目に外国の方から学んだことがあります。外国語は自分を主張  
するのに対して、日本語は曖昧な言語だとよく言われます。以前読ん  
だ本に、日本語はまるで風か水か空気みたいに自己主張をすることな

く、相手やまわりに溶け込んでいくと書いてあり、その例えにとても  
共感しました。しかし、それは日本語や日本人の良さでもあると思  
います。自分を主張する前に相手のことを気遣い、敬うことができる  
という点です。では、外国の方は一方的に自己主張をするだけなの  
でしょうか。それならば、相手に嫌な気持ちを与えてしまうのでは  
ないでしょうか。私は、ALTの先生と接する内に、その答えが見えて  
きました。彼は、しっかりと自己主張をしますが、いつもそれ以上に相  
手を認める言葉がけを自然にしてくれます。相手を大切に  
する姿勢が信頼関係を作るのです。だから、はっきりとした自己主張も嫌な感  
じを一切与えることはないのだと理解できました。私達日本人は、日本  
語の良さを大切にしながらも、もっともっと相手の個性を認める言  
葉を声に出して表現していくべきだと感じました。

もう一つ、私は方言も魅力的な言葉だと伝えたいです。小さい頃、  
亡くなった祖母が、「気の毒な」と「どんやいね」という言葉をよく  
使っていた事を思い出します。「気の毒な」はありますがとうと同じよ  
うな意味ですが、近所の人たちが何度もこの言葉を使い、その場が和む  
のが不思議でした。「どんやいね」は、私が百点をとったよ、と言う  
と「どんやいね」とびびくりしたよ、すごいね、という意味になっ  
たり、転んで泣いて帰った時には、「どんやいね。」と大丈夫？ 痛か  
ったね、と慰めてくれる優しい意味になったりと、どんな意味にもな  
る魔法の言葉でした。私は方言とは、相手への思いやりと優しさが詰  
まったその土地ならではの魔法の言葉だと思っています。私達の町は  
観光の町です。この方言を地域の宝にして、観光に訪れる方々に笑顔  
を与えたいと思います。

言葉には人を動かす力があります。相手を思いやった言葉のやり取  
りは、温かい人間関係を作り、そこから可能性や世界が広がっていく  
でしょう。私はこれからも言葉と真剣に向き合っていきます。みなさ  
も言葉の魔法使いになって、たくさんの人の心に笑顔の花を咲かせ  
ませんか？



「あつい」朝起きると感じる三文字の言葉。ムワッと広がる生温かい湿気は私の体力を奪っていく。

「今日の最高気温は三十五度です。」

その言葉を聞いた瞬間、私の頭はこんな疑問で埋め尽くされた。

「今って六月だっけ？」

皆さんは地球温暖化という言葉を知っていますか。きっと知っている人がほとんどだと思います。しかし地球温暖化の本当の怖さ、影響、対策法は知らない人が多いのではないのでしょうか。私も最初は知らなかったし、興味ありませんでした。しかし、最近になってきて地球温暖化による気温上昇が注目されるようになりました。加えてこの暑さ。「もうヤダ。やめて。」と思い、しだいにこれを終わらすために、何か自分でできることはないかと興味を持つようになりました。そして、これをみんなに広げていきたいと思いました。

そもそも地球温暖化とは温室効果ガスの濃度が上がり、温室効果がこれまでよりも強くなることで地上の気温が高くなることを言います。つまり、二酸化炭素などが放出されることで気温が高くなるということです。それが今の私たちに影響を及ぼしているのです。

親によると、今では当たり前のようになっていく「真夏日」は、かつては数日しかなかったそうです。しかし、現在では年間約四十六日、しかもこのまま何も対策を取らなかった場合、二一〇〇年までには年間約百三日、一年の三割近くが真夏日になってしまうというのです。

これは食品などにも影響します。皆さんリンゴってありますよね。今そのリンゴが気温上昇によって色づきが悪くなってしまうという問題が起っています。食品によっては腐ってしまうものもあるようです。また、気温が低いところでしか育たない野菜は育てられなくなっているそうです。気温上昇による不作。これは家計にも大打撃を与えています。実際に不作が値上げにつながり、私の母親は嘆いています。これは地球温暖化の陰だと言えます。

しかし、そんな地球温暖化でも完全には戻りませんが進行を抑えることができます。こう言われると国や会社などの大規模なものを想像

しがちです。ですが、私たちにもできることはいくつもあります。ここではそのうちの三つを紹介します。

一つ目は「家庭内で節電をすること」です。例えば夏のエアコンの温度を二十七度から二十八度に上げます。そうすると消費電力を十%〜十三%削減することができます。

二つ目は「公共交通機関を使うこと」です。世の中は車であふれています。ですが、その車は温室効果ガスを排出します。近い場所での移動には、できる限り使わないのがベストでしょう。

三つ目は意外ですが「野菜を食べること」です。実は、肉や乳製品などは製造過程が多く、牛や羊などが食物を消化するだけでも温室効果ガスが発生してしまいます。また、家畜の飼育によって発生する温室効果ガスは全体の約十四・五%を占めているそうです。一方、野菜は製造工程の中で出る温室効果ガスの割合が最も小さい傾向にあると言います。野菜を食べるだけで地球温暖化を抑えられるのは、結構驚きですよ。

このように、地球温暖化は私たちのちょっとした工夫で抑えることができます。

私は、これをきっかけにこんなことでいいんだ、こんなちょっとしたことでも未来を変えていけるんだ、そしてそれをみんなに伝えて実践していこうと思いました。

ちょっとしたしたことだけでもいいんです。お肉を野菜に変えたり、エアコンの温度を一度上げたり…そんな些細なことでもいいんです。実践するときはそんなちっぽけなこと…と感じるかもしれませんが、すぐに目に見えた結果にならないかもしれませんが、でも、そんなちっぽけなことでもみんなが実践することによって、大きな輪となって広がっていきます。今回調べたことは、そんなことを私に教えてくれました。

これからの世界の未来を創るのは、ここにいる私たちです。これからの未来を私たち自身で一緒に変えていきませんか。地球の未来のために。



中学生の私は、日々剣道や学業に勤しんでいます。そして、もう一つ、熱中していることがあります。それは、ファイナンシャルプランナーの資格試験です。

ファイナンシャルプランナーとは税金や保険などお金に関する幅広い知識を備え、人生のマネープラン設計をサポートする専門家のことを指します。

皆さんは税金や年金などお金についてどれほどの理解がありますか。私は未成年で、自営業を営む父親の扶養家族となっています。そのため、国民健康保険料を自分で払ったことはありません。また、アルバイトなど働いたことがなく、所得税を納付したこともありません。このように、私は一般的な社会システムのなかで生活しています。その枠組みや内容について直接関わったことがなく、驚くほどに無知でした。

そんな私がファイナンシャル分野について学ぶようになったのは、父の勧めがあったからです。父は社会がお金によってどのように組み立てられ、回っているかを熟知していました。父が、ファイナンシャルプランナーの勉強をすることを強く推奨したのは、お金の関係することに若いうちから自身で触れ確かな見識を持つ必要性を仕事の中で感じていたからだと思います。

ファイナンシャルプランナーの勉強では、ライフプランニングと資金計画、リスクマネジメント、金融資産運用、税金、不動産、相続事業承継の六つの分野について学ばなければなりません。この六分野で中心となっているのが税金です。例えば、一年間に受け取る年金や雑所得が一定額以下であれば確定申告をする必要はありません。他にも、遺産の額に応じて相続人は相続税を納めなければなりません。このように税金はどの分野にも共通する必須の知識です。何となく始めたファイナンシャルプランナーの勉強は、お金に対する知識を豊かにしました。

約半年間、勉強を続け、今年五月、ファイナンシャルプランナー三

級を取得しました。資格取得を通して、知識が繋がる喜びや学ぶ楽しさを感じる事ができました。しかし、最も大きな収穫は社会の仕組みを知ったことで、これまでわかっていなかったような部分があったことがいかに多かったのかに気付けたことでした。身の回りで起きていることを、表面的に受け取るのではなく、問題意識を持って俯瞰することができるようになったのです。例えば、超高齢化社会のニュースを見ても、これまでは、高齢者が多いことの問題の本質が理解できませんでした。しかし、年金制度を知ること、労働人口に比べ高齢者が多ければ年金を支払うことが今後ますます厳しくなっていくこと、また、年金制度の維持自体が困難となっていくこと、そして、なぜそのようなことが起こるのか、その原因や理由にまで考えが及ぶようになりました。

資格取得までの経験を通じて、物事を学び続ける重要性を再認識しました。そして知識を得ることで、より広い視野を持つことが可能となり、身の回りの事象への問題意識が醸成されたと感じています。新しい知識や技術を習得することが新しい世界への門戸となり、視野を広げることに繋がりました。そして、これは誰にでも言えることです。学ぶ意欲を持つのみで終わらせず、実際に学び、それを続けていくことこそ、人生のよりよい形成において大切なことではないでしょうか。そして、一人ひとりが充実した人生を送るために私にできることは一人でも多くの人の学ぶきっかけを作ることです。かつて父が私にしてくれたように、私は、ファイナンシャルプランナーの知識を、多くの人の興味関心をくすぐるため有効に活用していきます。そのために、歩みを止めることなく広い視野を持ち、知識を更新、追求していきます。



大変素晴らしい主張をしてくれた十六名の皆さん、本当におつかれさまでした。

本日の発表では、人権問題、環境問題、身近の問題など様々な問題を自分の課題として捉え、向き合い、その解決方法を堂々と発表している皆さんの姿に大変感心いたしました。

また、私もそうですが、この会場にいる皆さんにとって、自分の生活や行動を振り返るよい機会となったのではないのでしょうか。

どの発表も甲乙つけがたく、大変難しい審査となりましたが、最優秀をとられました中田さんをはじめ、受賞された皆さん本当におめでとうございます。中田さんは、十一月からWEBにて行われる全国大会に出場すると聞いております。ぜひ、本県の代表として頑張ってください。

さて、皆さんが活躍する十年後、二十年後は変化の激しい予測困難な時代だと言われています。現在は、AI、ドローン、再生医療、バーチャルサイエンスなどが世の中に普通に存在しますが、この技術は、十年前、二十年前では考えられなかった技術です。皆さんが活躍する十年後、二十年後にはもつとすごい技術が現実になっていると思います。もしかしたら、AIがこの壇上で挨拶をしているかもしれないし、皆さんの通った学校でAIを搭載したロボットが勉強を教えているかもしれません。

でも、皆さんとここで確認したいのは、これらの技術を作ったのはわれわれ人間だということです。われわれ人間は、社会をよりよくするために、一人一人がまず気になること、違和感のあること、実現したいことなどを問題として取り出し、解決すべき課題を明らかにし、その問題がどのようなプロセスをたどれば解決できるかを見通し、解決に向けて必要な条件を整え、粘り強く取り組み、最適解を導き出す

ことができます。まさに、今日の皆さんがここまで取り組んで来た過程そのものです。

皆さんは、将来、必ずAIと共存することになります。単純労働では二十四時間文句も言わずに働いてくれるAIにはかえません。でも、人にはAIにはない創造性、好奇心があります。ぜひ、皆さんには、今日の経験を忘れず、知識をそのまま鵜呑みにするのではなく、常にそれでいいのかと疑問をもち、考え、そして行動してほしいと思います。

結びに、このような子どもたちの成長の場を企画していただいた関係者の皆様、また本日まで色々ご指導いただいた先生方、いつもそばで支えてくれる保護者の皆様に深く敬意を示し、私の講評とさせていただきます。



# 令和4年度 少年の主張石川県大会概要

## 1 趣 旨

中学生が、日常生活での体験や考えを自分自身の言葉でまとめ、それを広く発表する機会を提供することにより、中学生世代における社会参加意識の醸成を図るとともに、多くの大人に現代の中学生への理解を深めてもらう。

## 2 主 催

石川県 石川県教育委員会 石川県健民運動推進本部  
独立行政法人国立青少年教育振興機構

## 3 後 援

石川県市町教育委員会連合会 石川県小中学校長会  
石川県PTA連合会 石川県子ども会連合会  
明るい社会づくり運動いしかわ 石川県青少年育成アドバイザー協会  
石川県BBS連盟

## 4 日 時

令和4年8月27日（土）午後1時30分～

## 5 会 場

石川県青少年総合研修センター（金沢市常盤町 212-1 TEL076-252-0666）

## 6 出場資格

県大会へ出場する生徒は各地区大会で選出された生徒とし、在籍中学校長へは健民運動推進本部より県大会参加通知をする。

## 7 発表内容

次に掲げる事項の中で、心からの思い、考えたことや感銘を受けたことなどを、少年らしい自由にユニークに、飾り気のない言葉でまとめたもの。

ア 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など

イ 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友達との関わりなど

ウ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

## 8 表 彰

最優秀賞（石川県知事賞） 1名

優 秀 賞（石川県教育委員会賞） 2名

奨 励 賞（石川県健民運動推進本部長賞） 13名

## 9 その他

(1) 発表内容は、記録集として発表者、中学校長、青少年団体等へ配付する。また、広く同世代の少年及び世代を越えた人々の意識を啓発するために、健民運動推進本部のホームページにも掲載する。

(2) 最優秀賞受賞生徒は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が11月に開催する「少年の主張全国大会」出場者選考のための全国大会代表審査委員会へ推薦される。

## 県大会審査基準

### 1 採点方法

100点満点とし、各項目の配点は次のとおりとする。

- (1) 論旨・内容 60点
- (2) 表現力 30点
- (3) 態度 10点

### 2 採点上の観点

#### (1) 論旨・内容について

- ア 鋭い感性で、新鮮な主張であるか（中学生らしさ）
- イ 新しい情報や視点があるか
- ウ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか
- エ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか
- オ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか

#### (2) 表現力について

- ア 聞きやすく、説得力のある話だったか
- イ 話しぶりに熱意と迫力があつたか
- ウ 聴衆に共感と感動を与えていたか

#### (3) 態度について

- ア 中学生らしく、さわやかで落ち着いた態度であつたか

### 3 時間超過の場合の減点

各発表者の持ち時間を5分とし、持ち時間を超過した場合はその時間の長さに応じて各審査委員の点数から減点する。（5分30秒以内は減点しない。5分30秒を超え6分以内は1点、6分を超えると2点の減点をする。）

## 審査委員

(1) 審査委員長 大久保 邦彦 (石川県市町教育委員会連合会 副会長)

(2) 審査委員 中黒 公彦 (石川県青少年育成推進指導員連絡会 会長)

青木 飛鳥 (石川県PTA連合会 副会長)

縄 寛敏 (石川県子ども会連合会 会長)

釜谷 剛 (石川県小中学校長会 理事)

宮坂 巖 (石川県教育委員会事務局学校指導課 担当課長)

## 地区大会概要

(1) 加賀地区大会（加賀市、小松市、能美市、能美郡川北町）

「第41回 加賀地区中生意見発表大会」

主催 加賀地区市町教育委員会

共催 石川県健民運動推進本部

日時 令和4年8月6日（土）13:00～

会場 能美市根上総合文化会館 円形ホール

審査員 二口英一郎（小松教育事務所長）

石黒 和彦（加南地区教育委員会連絡協議会長）

谷口 徹（能美市教育長）

寺山 晶子（小松教育事務所指導主事）

発表者（19名）

タイトル	中学校名	学年	氏名
人生という資産を形成するにあたって	能美市立根上中学校	3	重谷 昂伯
理想の学校	小松市立安宅中学校	2	畠山 雪乃
インターネットの可能性	小松市立国府中学校	3	山越 玲
他人事（ひとごと）とは思ってられない	加賀市立片山津中学校	3	山影 柑太
税金はなぜ必要か	小松市立中海中学校	1	茂岩 希海
「共生」する社会	能美市立辰口中学校	3	長村 怜香
頑張るとは	小松市立芦城中学校	2	瀧 菜々子
主語をかえる	加賀市立東和中学校	3	木下 陽加里
「ごめんなさい」が言えなくて	加賀市立東和中学校	3	辻井 風環
身近な出来事をきっかけに	小松市立松陽中学校	3	堀木 絵湖
「挑戦」する力	小松市立南部中学校	3	木下 和奏
大切なもの	加賀市立山中中学校	3	宮下 侑人
言葉の魔法使い	加賀市立山中中学校	3	奥村 音葉
自分らしく生きるために	小松市立板津中学校	3	澤田 亜子
男女という縛りを捨てて	川北町立川北中学校	3	馬庭 菜月
「認知症」と共に	小松市立御幸中学校	3	出淵 朝子
世の中に対して言いたいこと	加賀市立山代中学校	3	高橋 明成
一つの行動で変わる	能美市立寺井中学校	3	酒野 夢莉
工夫一つで変わる地球の未来	小松市立丸内中学校	3	庄田 葵

(2) 石川中央地区大会（かほく市、白山市、野々市市、河北郡）

「第32回（令和4年度）少年の主張石川中央地区大会」

主催 石川県 石川県健民運動推進本部

共催 内灘町教育委員会 石川県青少年育成アドバイザー協会

日時 令和4年8月6日（土）13：30～

会場 内灘町文化会館

審査委員 桐山 一人（内灘町教育委員会 教育長）

広橋 陵（石川県河北郡市校長会 津幡町立津幡南中学校 主幹教諭）

谷口 清次（白山市PTA連合会 副会長）

清水絵里奈（石川県教育委員会金沢教育事務所 指導主事）

宮崎 禮子（石川県青少年育成アドバイザー協会 会長）

発表者（17名）

タイトル	中学校名	学年	氏名
自分の四年間	白山市立松任中学校	3	藤田 連
家族	白山市立松任中学校	3	香城 珠優
みんなが持つ色	白山市立北星中学校	3	岸野 杏咲
人とのつながりを大切に	白山市立北星中学校	3	天満 愛菜
「会話」の形	白山市立光野中学校	3	松本 菜佑
より善く今を生きる	白山市立鶴来中学校	3	北田 結生
一つ一つの出会い	白山市立北辰中学校	3	道上 真生子
前向きに生きるために	白山市立鳥越中学校	3	紺谷 恵
殺処分を減らすために今できること	白山市立白嶺中学校	3	飛田 皐羽
人々の心の声に耳を傾けて	野々市市立野々市中学校	3	酒谷 奏海
先入観をふっとばせ	野々市市立野々市中学校	3	後藤 凜子
情報化社会に生きる今の私たちと日本の文化の関わり	野々市市立布水中学校	3	一願 亜依里
文化の違いを超えて	かほく市立高松中学校	3	西田 佳芳
本当の自由とは	かほく市立宇ノ気中学校	3	大井 奏音
生きやすく生きるために	内灘町立内灘中学校	3	板井 愛友美
コミュニケーションと私	津幡町立津幡中学校	3	前田 優衣
命の尊さ	津幡町立津幡南中学校	3	飛田 賢人



(3) 金沢市地区大会（金沢市）

第75回金沢市「中学生からのメッセージ」発表会

主催 金沢市教育委員会 金沢市中学校文化連盟弁論部

日時 令和4年8月10日（水）13:00～

会場 長土堀青少年交流センター

審査員 二見 和男 NHKキャスター

市内中学校国語科担当教諭 等

発表者（26名）

タイトル	中学校名	学年	氏名
幸せとは	金沢市立泉中学校	3	関谷 優那
幸せに生きるためには	金沢市立芝原中学校	3	齊藤 想歩
知ろうとすること	金沢市立紫錦台中学校	3	横野 一子
将来の手伝い	金沢市立医王山中学校	3	水上 和人
一步踏み出す勇氣	金沢市立小将町中学校	2	池田 奈菜子
「大切にする」ということ	金沢市立長田中学校	3	本田 慎太郎
「きょうだい児」が無くなる社会へ	金沢市立野田中学校	3	高岸 奏
失敗を乗り越える	金沢市立犀星中学校	3	安本 彩乃
自分なりの正しさ	金沢大学附属中学校	3	小坂 紘生
和食を救え！	金沢市立緑中学校	3	下 双葉
救える命はすぐそこに	金沢市立浅野川中学校	3	杉森 夏帆
不平等な世界で生きる僕ら	金沢市立城南中学校	3	坂上 慶
「平和」な世界	金沢市立額中学校	3	木村 陽友
外の世界は楽しいのである	金沢市立西南部中学校	3	川上 賑
天才	県立金沢錦丘中学校	3	加藤 希
言葉に惑わされない私に	金沢市立大徳中学校	3	林 莉愛
心の支えになる「理解」	金沢市立清泉中学校	3	前川 音々
「正しさ」について	北陸学院中学校	3	古屋 七花
二人の妹から学んだこと	金沢市立森本中学校	3	敦嶋 奈津子
男女平等の社会をつくる	金沢市立金石中学校	3	小松 咲奈
二つの大逆転	金沢市立高尾台中学校	3	畑田 寛太
ジェンダー平等と社会の考え	金沢市立兼六中学校	3	中瀬 実咲
失敗を笑わない未来	金沢市立鳴和中学校	3	安達 佳歩
動物たちの未来を私たちの手で広げよう	金沢市立港中学校	3	玉泉 瑠奈
失ってから気づいたこと	金沢市立高岡中学校	3	四十万 楓佳
失って気付くもの	金沢市立北鳴中学校	3	音川 ちな

(4) 能登地区大会（七尾市、羽咋市、輪島市、珠洲市、羽咋郡、鹿島郡、鳳珠郡）  
「第54回全能登私の主張発表大会」

主催 第54回全能登私の主張発表大会実行委員会、七尾市教育委員会

共催 石川県健民運動推進本部

日時 令和4年8月10日（水） 9：30～

会場 七尾市文化ホール

審査委員 松浦 顕雄（全国高等学校文化連盟弁論部 常任理事）

布川かほる（石川県教育委員会中能登教育事務所指導課 課長）

木本 三佳（七尾市小中学校校長会 幹事長）

辻口 正恵（七尾市中学校文化連盟会 会長）

水谷内良郎（中能登町立中能登中学校 校長）

山原 真吾（七尾市教育委員会学校教育課 課長）

発表者（11名）

タイトル	中学校名	学年	氏名
本当の自分	中能登町立中能登中学校	3	森正 璃音
一人じゃないということ	七尾市立七尾東部中学校	3	清水 茉優
「自分らしく」	輪島市立東陽中学校	3	中村 紗綾
何を履いたっていい	七尾市立中島中学校	2	瀬戸 美波
からっぽの「凄い」	七尾市立能登香島中学校	3	清水 優生
消えろ「女子力」	七尾市立七尾中学校	2	佐竹 美洸
私の家族へ	七尾市立七尾中学校	3	久保 心
これから出会うであろう人たちへ	中能登町立中能登中学校	3	中田 聡音
合わせるの、もう、いいかな。	七尾市立能登香島中学校	3	浅田 遥音
ありのままの自分	七尾市立七尾東部中学校	3	亀喜 穂花
母からの言葉	輪島市立門前中学校	3	吉村 姫乃

あなたの声、心に届け

山梨県 北杜市立甲陵中学校 三年 前橋 真子

「真子ちゃん、きょうだいいるの?」「妹と弟がいるよ。」「妹かあ。羨ましい。羨ましいなんて……。私は妹の存在を口に出すのをためらうことがあった。

私の妹は生まれつき音が聞こえない重度難聴だ。左耳に音を増幅させる補聴器、右耳に脳に音の信号を送る人工内耳を付けている。発音も上手ではない。私が小学生のとき「妹、障がい者なのに元氣だね。」と友達に言われた。なんとも言い表せないモヤモヤが私の心に渦巻いた。障がいのある妹が明るく元氣なのは普通のことではないと思ひ、恥ずかしさを覚えた。そしていつの間にか妹のことを口にするのも、一緒に出掛けるのも辛くなった。

この春中学校入学を控えた妹は、補聴器を新調した。私も一緒に店に行った。そこには色とりどりの補聴器が並んでいた。お店の方は、好きな色を選ぶよう言った。私は「真紀ちゃん、黒か茶色を選んだら?」と勧めた。強く勧めた。黒か茶色なら髪の毛と同調して、あまり目立たない。みんなと変わらない見た目でいられる。恥ずかしい思ひをしなくてすむように、何度も言った。しかしそんな私を見て妹は言ったのだ。「誰になんと思われても、これは私の耳なの。私は黄色い補聴器の私を見てもらいたいの。」妹に言われてハツとした。障がいにこだわっていたのは私自身だったのだ。

聴覚障がいのある妹が、明るく元氣なのはおかしいのか。いや、妹は妹だ。妹が笑顔を絶やさないのは、今まで本当に沢山の努力をしてきたからだ。私と同じ小学校に行くために、人工内耳の手術を受け、手話が無くても友達と話せるように病院やろう学校に通って、発音練習を頑張っていた。誰にでも優しいのは、自分がされて嫌だったことや辛かったことを痛いほどに知っているからだ。私は、今まで辛くて、悔しくて泣く妹を何度も見た。でもその度に努力してハンディキャップを乗り越えていた。そんな妹の努力を一番近くで見知っているのは私だ。障がい者というフィルタを通さず、ありのままの妹を見て欲しい。手話や口話、筆談、テレビの字幕も全部、社会と繋がるコミュ

ニケーションツールの一部だ。それが妹の全てではない。

聴覚障がい者は、一度見ただけでは耳が不自由かわからず、接し方に戸惑うことがある。でも耳の不自由な人がみんな、相手に手話を望んでいるわけではない。聴覚障がい者が困っているときは、その人の正面から「何か手伝えることはありますか。」と口を大きく開け、ゆつくり話しかけてほしい。

「思いやりのある言葉は、たとえ簡単な言葉でも、ずっとずっとこたえます。」これは貧困や病に苦しむ人の救済に生涯を捧げた、マザーテレサの言葉だ。心のバリアフリーの精神を表している。まずは聞こえないことについて知ろうとしてほしい。その思いやりでどれだけ救われる人がいることだろう。

妹は毎日黄色い補聴器をつけ、お気に入りのテニスラケットを持ち元気に登校している。先日友達に「妹さん明るくて、部活のムードメーカーで、頑張っているよ。」と言われた。ありのままの妹を見てくれていると分かり心が温かくなった。そんな妹は私の誇りだ。

私たちにできることには限りがあるかもしれない。それでもあなたの身近にハンディキャップを持つ人がいたなら、そのハンディというフィルタ越しではなく、その人自身や心に寄り添ってほしい。障がいのある人への理解が進むことで、一人またひとりと笑顔が増えていくと確信している。

妹の耳に、あなたの声は聞こえないかもしれない。でも、あなたの気持ちには妹の心に確実に、届いている。



毎月第3日曜日は「家庭の日」です  
家族とのふれあいを大切にしましょう

---

## 石川県健民運動推進本部

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地  
石川県県民文化スポーツ部県民交流課内

TEL 076-225-1365 FAX 076-225-1363

ホームページ [健民運動](#) で検索

メール [kouryu@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:kouryu@pref.ishikawa.lg.jp)

---

この冊子は再生紙を使用しています